



天使 L'ANGE

Patrick Bokanowski

監督・映像特殊効果・装置ミニチュア・編集 + パトリック・ボカノウスキー 音楽 + ミシェール・ボカノウスキー 撮影 + フィリップ・ラヴァレット 装置ミニチュア・仮面 + クリスチャン・ダニノス
出演 + モーリス・バケ、ジャン＝マリー・ボン、マルティース・クチュール、ジャック・フォル、マリオ・ゴンザレス、ルネ・パトリニャーニ、リタ・ルノワール

1982 | フランス | 64 分 | 1:1:33 | DCP | カラー

Copyright KIRA B.M.FILMS / INSTITUT NATIONAL DE L'AUDIOVISUEL 1982

配給・宣伝 + ミストラルジャパン 宣伝美術 + 小川製乃



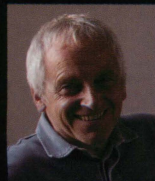
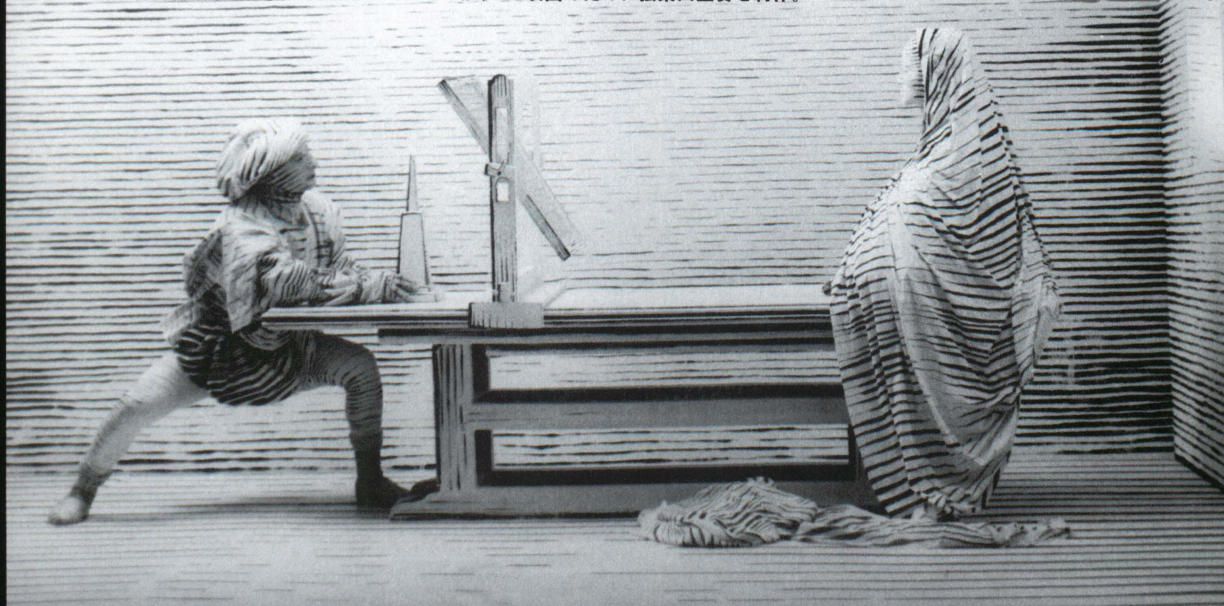
“伝説と呼ばれた映画”ふたたびスクリーンへ

1980年代、フランス。カンヌ映画祭批評家週間で衝撃を与え、世界のアートシーンに登場した『天使／L'ANGE』は、『アンダルシアの犬』の再来かつ、全く新しいアヴァンギャルド映画と絶賛された。しかしながら、この作品には、ダリ&ブニエール、マン・レイ、コクトー、デレン、アンガーといった旧来の「アヴァンギャルド映画」「実験映画」とは、一線を画した哲学がある。どの1コマを切り出しても、完璧な絵画となり得てしまうほど美しいのだ。

その美は、まさに洗練されており、35年以上の月日を経た現在でも、生まれたてのような輝きを放っている。この執拗、と言っても大袈裟ではない、恐ろしいまでの美意識に基づいた特殊合成・特殊効果のほとんどを、ボカノウスキー自身が行ったため、完成までには5年という歳月が費やされた。

音楽は、妻で現代音楽家のミシェル・ボカノウスキーが、この映画のために弦楽四重奏を制作。

[1982|フランス|64分|1:1:33|DCP|カラー]



パトリック・ボカノウスキー Patrick Bokanowski

1943年生まれ、パリ在住。映画監督・画家・写真家。1961年から写真、光学、暗室技術を学ぶ、1972年より撮影、アニメーション、ボスプロの全てに実験的技術を駆使した多くの短編と長編映画を制作。処女作『白粉をぬる女』(1972)がツーロン映画祭で金賞、『朝の食事』(1974)はオーバーハウゼン実験映画祭などで受賞。2015-16年に制作された『太陽の夢』は2本目の長編映画。日本での上映作品として『海辺にて』(1991)『鴨のオレンジソース蒸し』(2002)がある。

2020年11月上旬より デジタルリマスター版ロードショー

特別鑑賞券 1,500 円 (税込) ※当日一般 1,800 円 (税込)

(オリジナル「天使／L'ANGE」ステッカー付)

劇場窓口と、ミストラルジャパン通販サイトにて発売!

ミストラルジャパンショップ (<https://mistralljapan.theshop.jp>)

www.ange-film.com



ange_film



[シアター] イメージフォーラム

全席指定 / オンライン予約あり

03-5766-0114 <http://www.imageforum.co.jp/>



渋谷駅より徒歩 8 分 宮益坂上り、青山通り表参道方面一つ目の信号入る